

月報 2021 年 11 月 30 日 No.370

石城山岳会

11 月号

四方通信



石城山岳会事務局編集

小野岳 (1,383m)

霊山

高原山 (鶏頂山、釈迦ヶ岳)

小野岳 (1 3 8 3m)

日山

葛尾竜子山 (920.5m)

那須三斗小屋温泉・姥ヶ平

高森山 1099m

土埋山 (つちうづみやま) 696.4m

高館山 847.7m

美女峠、俎倉山（まないたくらやま）1056.4m

愛宕山 754.4m

宮床湿原

明神岳 766m

宝篋山（461m）

生瀬富士・立神山・月居山

高尾山

ニツ石山（751m）

小野岳（1,383m）

2021 年 10 月 27 日（水）

下山田夫妻、尾形成久、長子

今回の登山は、「うつくしま百名山」に選定されている「小野岳」をゆっくり登り、福島県民割プラスを利用して、登山後はゆっくりと湯野上温泉に一泊するものでした。所要時間は通常登るのに 1.5 時間のところ、倍の 3 時間、下りに 2 時間、森林浴をしながら山の風景を楽しみました。

コースは大内宿コースと小野観音コースとありますが、私たちは、大内宿コースとし、大内登山口から鉄塔、小野岳、のピストンでした。

大内登山口は大内宿駐車場を過ぎて、約 1.5 km 先の右側に折れると 200m 先に駐車場があり、その奥に登山口があり、杉林を真っすぐに登ると、右手に小さい沢と合流して沢沿いを登り、沢の最後に水場がありました。

分岐まで急登となり、分岐から鉄塔（展望台）に進み、ふもとを見下ろして一休み、分岐まで戻り、ブナの大木の中、数回アップダウンを繰り返し、急登を登りきると、広い小野岳山頂となりました。

下りは、ややペースを上げ、同じコースを戻りました。

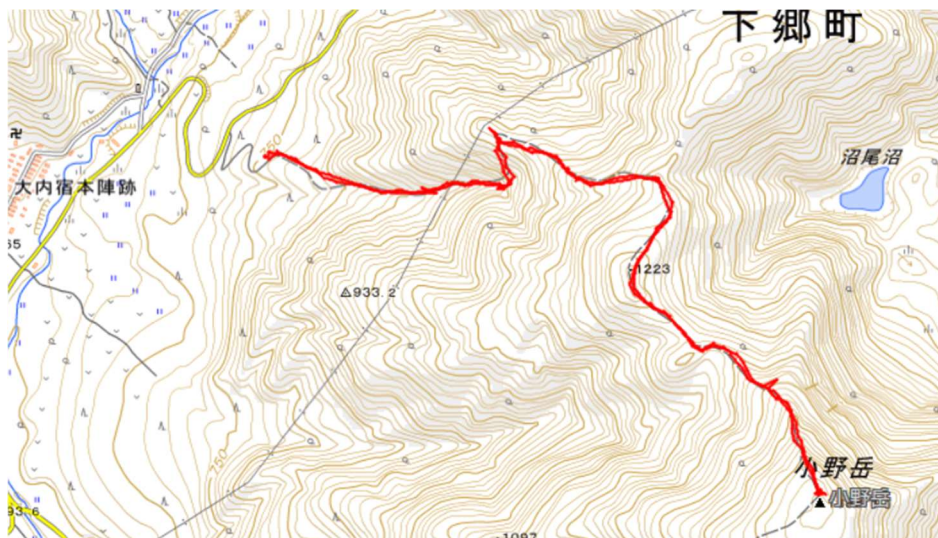
下山田夫妻と尾形家の初めての登山と宿泊でした。

大変お世話になりました。

コースタイム

7:00 水石駐車場→9:33 大内登山口→10:45 鉄塔
→12:34 小野岳山頂→15:15 大内登山口

（文責：尾形成久）





霊山

2021年10月30日

佐藤（秀）蛭田（みち）佐藤（幸）伊藤

石城山岳会メンバーの最近行った写真を見て、霊山に興味をもちました。東北の秀峰として名高い霊山は国の史跡及び名勝に指定され、紅葉でも有名な山だということを知りました。

紅葉シーズンのため、出発時間を6時30分から5時に変更して、高速道路を使用せず、国道沿いに車をはしらせました。道路脇の田畑には霜が降り、外の温度計は、1℃、2℃の表示がみられました。

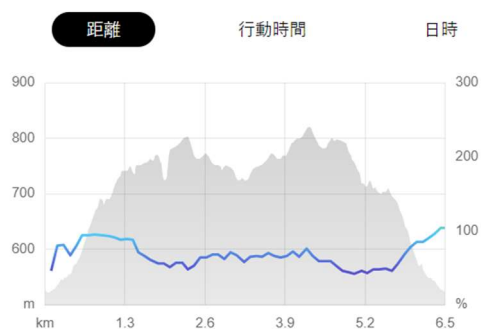
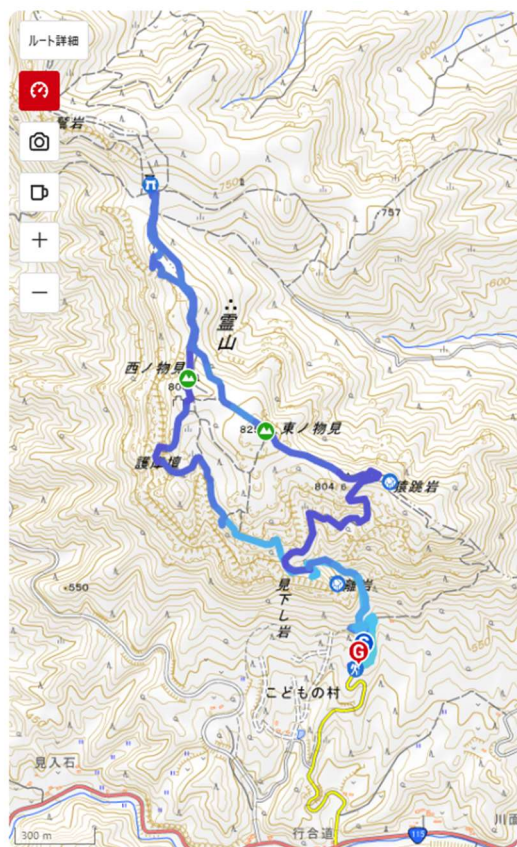
ここ最近の急激な温度差が紅葉を早め、標高の高い山は雪化粧になり、気軽に登山できるチャンスも少ないと感じていた時、霊山を知り、是非、チャレンジしたいと考えました。

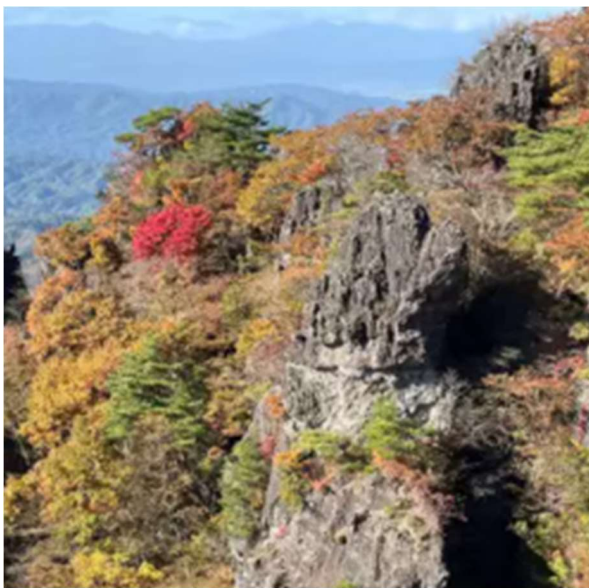
朝7時30分、晴天下、霊山登山口駐車場は満車ではなく、ゆっくり準備して、登山開始することが出来ました。低山ながら、ハイキングコースが整備され気軽にトレッキングができると宣伝されており、最近の登山ブームのためか、あっという間に駐車場は満車になり、子供から大人まで様々な人がハイキングを楽しんでいました。しかし、中には、高いはしごや、細い道に鎖場があり、メンバーの中には恐くて歩けないとか登れないと言う人もいました。皆で励まし、声をかけながら歩き、予定の神社まで行き、無事に下山しました。帰り道、食べたかった果物のパフェを食べ、入りたかった名目津温泉に入り、皆で大満足の1日でした。

文責：佐藤幸子

（コースタイム）

7:30 霊山登山口出発—9:34 西ノ物見—11:00 神社—11:27 西ノ物見—11:34 霊山（東ノ物見）—12:21 猿跳岩—13:04 離岩—13:18 霊山登山口到着 タイム合計 5時間48分





高原山（鶏頂山、釈迦ヶ岳）

2021 年 11 月 3 日（水） 太

関東百名山のひとつ、高原山に、日塩もみじライン側の藤原コースで登った。

前夜に市内を出発し、未明 1 時過ぎには、西登山口の駐車場に到着。駐車場は砂利敷きで 20 台分くらい。トイレはない。朝 5 時半まで車中仮眠する。

6 時過ぎ、目印の赤い鳥居をくぐって登り始める。主にカラマツの林の中、1 時間ほど緩やかな登りが続く。途中、スキー場の林間コースに何度か出合うが、道標やピンクテープがあるので迷うことはない。

弁天沼に着くと、ほとりには鳥居に石祠、登拝記念碑などが建つ。ここから先、鶏頂山（1785m）まで急登。細い尾根まで上がると、道はさらに傾斜を増し、ロープが続く。山頂には鶏頂山神社の木造社殿、広場には展望ベンチがあった。あいにく頂上だけがガスで、まったく眺望は得られなかった。

鶏頂山から下り、釈迦ヶ岳（1795m）までは細い尾根を歩く。崩壊で片側が切り立った場所もあり、気を抜かずに進む。釈迦ヶ岳の直下を急登し、山頂の広場に出ると、素晴らしい展望が広がる。眼下に矢板、宇都宮方面の市街地を一望、遥か遠くに裾野が雲で隠れた白い富士、近くは特徴ある山容の鶏頂山、その向こうには日光連山が迫る。塩原側の麓は一面の黄葉。時間は早かったが、眺望に非常に満足できたので、三角点近くの祠脇で休憩後は、釈迦如来の石仏に感謝しつつ下山を開始。

駐車場に戻ると、満車に近い状態。帰路は、日塩もみじラインの素敵な紅葉を楽しみながらのドライブだったが、西那須野インター付近まで所どころで軽い渋滞に遭った。

文責：太

タイム

6：15 藤原コース西登山口→7：15 弁天沼 7：25→8：05 鶏頂山 8：10→8：40 塩原コース分岐

→9：20 釈迦ヶ岳 9：40→10：25 塩原コース分岐→10：50 弁天沼→11：05 大沼

→11：50 藤原コース西登山口



小野岳（1383m）

2021年11月 3日(水)

参加者：西、安部、須藤、山中

当初は只見町の蒲生岳への山行を計画していましたが、変更して紅葉の中を小野岳に登る山行になりました。小野岳は南会津方面に行くといつも目に留まっていた山でした。登り口には大内宿コースと小野観音コースがありますが、今回は小野観音コースのピストンで登ることにしました。



小野観音堂がある小野観音登山口からスタートしました。なだらかな林道をしばらく進むと小野岳登山口の道標がありました。ここから杉が植林されているつづら折りの急坂を登ります。この辺りは正直つまらない登りです。やがて杉林を抜けるとブナやミズナラの森になりこの辺りから紅葉が楽しめるようになって来ました。木立が開けたところでは周りの山々の紅葉の素晴らしい景色が望めました。急坂を登り傾斜が緩やかになったあたりにはダケカンバが樹生していました。登山道は仮払いされ整備されていて登り易かったです。

山頂には我々と同時くらいに宇都宮からのグループも大内宿コースから登ってきました。山頂からはダム湖や目の前には大戸岳、さらには猪苗代湖や会津若松が望めました。飯豊山や磐梯山は残念ながら雲に隠れていました。しばらく休憩してから下山しました。

展望は大内宿コースの方が良さそうですが、紅葉の木漏れ日の中の山歩きは気持ちよく、小野観音コースのピストンは足腰の鍛錬にもなりました。

[タイム]

小野観音堂 8:10 → 小野岳登山口 8:40 → 小野岳 10:40（休憩） 11:20 → 小野岳登山口 12:50 → 小野観音堂 13:10



（文責：山中）



日山

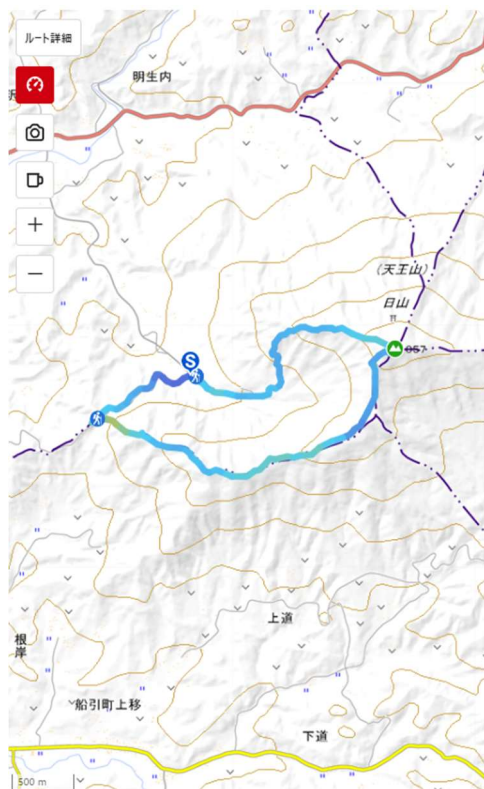
11月3日(水)

蛭田みち、佐藤(秀美)、佐藤(幸)

紅葉時期のため、候補にでた筑波山を諦めて、近くの日山か額取山かを3人で検討した結果、強風だとよく聞く額取山を諦めて日山に決定しました。高速道路を通る時間と下の一般道路を通る時間が10分ぐらいしか変わらないことを知り、早い時間に出発すればスムーズに行けると水石山駐車場に6時15分出発で計画をたてました。早く帰れる時は、温泉によりましょと準備万端。

日山到着。駐車場には車2台のみ。少し寂しい感じでのスタートでした。歩きはじめるときちゃんと整備された道沿いに柵が見られ、少し前まで牛の放牧がされていたことがわかりました。

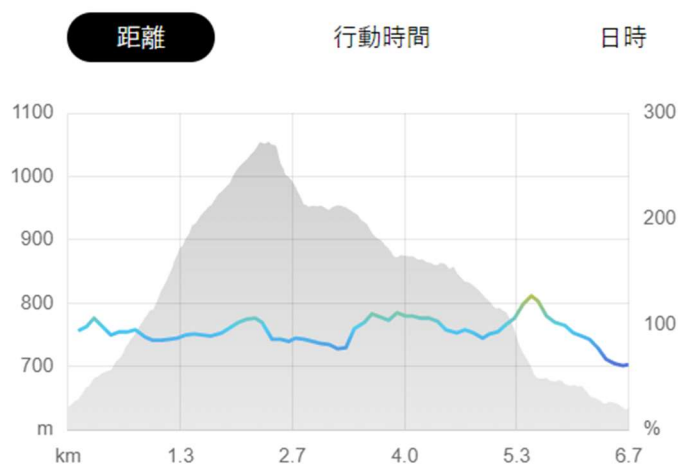
道には、枯葉が落ちていて、茶色、黄色、赤色、と様々な色が混じり、とても綺麗でした。上を見ると空は快晴で青、紅葉の様々な綺麗な色、私たち3人だけでこの場所を独占していいのだろうか。と思うほど静かで、感動の時間が過ぎていきました。頂上到着。ようやく他の登山者の姿を見て、綺麗な紅葉を見に来た人は私たちだけでは無かったことを知りました。紅葉が綺麗なのに、登山者が少なく、もっと宣伝すればいいのに。と思ったほどです。少し早めのランチを済ませ、下山しました。温泉に入って帰ることにしました。私は初めての温泉でしたが、テレビで良く見る、有名な温泉と聞き、とてもたのしみでした。温泉の色は茶色で、少し手を下に付けていたら手が茶色になり驚きました。でも直ぐに元の色に戻りました。温泉に入り筋肉疲労が無くなったような気がして、帰りました。とても楽しい、山行でした。

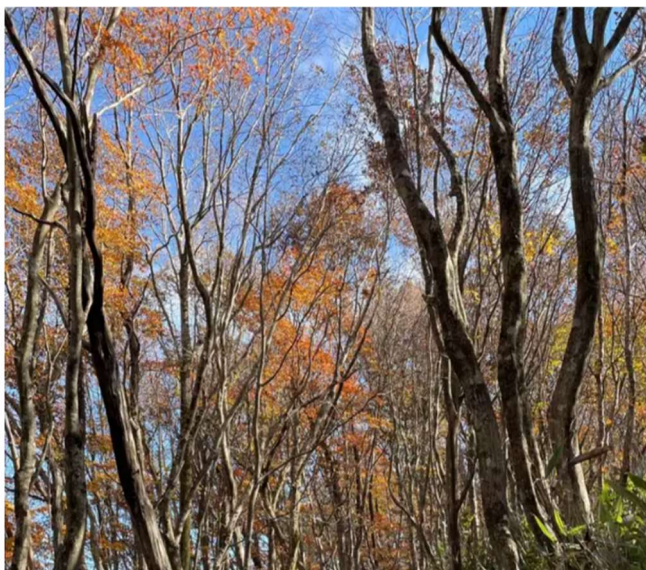


コースタイム 8:12 登山口出発—9:50 日山(天王山)
—13:21 登山口到着

タイム 5時間9分

距離 6,6 km





葛尾竜子山（920.5m）

2021年11月6日（土）

参加者：秋葉、小林、山形、吉田、安部

秋晴れの日阿武隈山系の常葉町と葛尾村にまたがる「竜子山」の山歩きに参加した。紅葉の盛りは過ぎていたが、所々にあった雑木林の中にあったカエデがまだ紅い葉をつけていて、残り少ない秋を楽しむことができた。



県道常葉野川線沿いの駐車帯に車を置き西登山口よりスタートした。畑や民家の脇を通り、山林の中の林道を歩く。途中から雑木林の中の山道に入り、しばらくすると巨石のたもとに「竜子姫」を祀っている西神社がある。小さい祠ではあるが自然に出来たであろう巨石の形状に自然の力を感じる。この辺りまでは山道が分かるのだが、それ以降は分かりづらく、山頂手前は藪こぎ的な感じである。が、これがまた良い。山頂には三角点と看板があるが展望は無い。北側に少し行った所から北側の山が見える。山頂にて休憩をして下山とする。下山は東側に回り広葉樹の雑木林の中を進む。途中少し入った所に巨石があり、たもとに「竜子姫」を祀っている東神社の祠がある。こちらの巨石もまた形状が良く、自然のすごさを感じる。山道に戻り杉林の中を進むと畑となり、農道に出る。その後県道に出て東口登山口となる。県道を常葉方面に歩き、西登山口に着く。

昼食は葛尾村名物の石井食堂です。以前から盛の良さが評判と聞いていましたが私が頼んだチャーハンは大盛でした。脂汗をかきながらなんとか完食をしました。ごつつぁんです。

阿武隈山系のさっぱりとした雑木林の中を歩く森林浴に最適で、巨石群+神社からパワーをもらった山行となりました。



タイム

西登山口発 8:30 → 西神社 9:05 → 竜子山山頂
(おやつタイム) 9:45~10:05 → 東神社 10:25
→ 東登山口 10:55 → 西登山口着 11:15

（文責：安部）

那須三斗小屋温泉・姥ヶ平

2021年11月13・14日（土・日）

下山田・小林・太・山縣・菊地

大黒屋旅館の予約が取れたので、秘湯三斗小屋温泉に1泊し、那須岳周辺を歩いた。

峠の茶屋の下、県営駐車場は賑わっていたが、公衆トイレに近い場所に駐車できた。茶店の前を通って登り始める。峠の茶屋跡まで来ると、稜線を吹く風が冷たく、避難小屋の中に入って休憩。峠の茶屋跡から三斗小屋温泉方向へ急な道を下ると、温泉まではアップダウンの少ない樹林の道。ゆっくり山行だが、正午過ぎに大黒屋旅館に到着。受付を済ませると、新館へ案内される。新館は木造2階建てで、本館と廊下でつながっている。新館の玄関で登山靴を脱ぎ、ストックを置く。時間は早い、さっそく入浴し、呑みながら寛ぐ。新館の談話室には炬燵があって寛げる。部屋用には有料ストーブを借り受けた。

旅館の風呂は、岩風呂と檜風呂。岩風呂は、ぬるめの湯で、浴室はコンクリート床の小さな小部屋。檜風呂は、熱めと少しぬるめの浴槽があり、浴室は、床も木製。沢に面し2方向に大きなガラス窓があるので外を眺められる。1時間ごとに男女で浴室が交換になるので、両風呂とも楽しめる。旅館の食事は、部屋食。夕食はフライ、クリーム煮などで、朝食は、納豆、温泉卵、海苔と、いかにも昔風旅館らしいメニューが、お膳で運ばれてきた。

翌日は、風呂と朝食の後、ゆっくり宿を出発。沼原分岐から御沢へ下り、姥ヶ平へ登り返して、ひょうたん池で逆さ茶臼を眺めた。姥ヶ平から牛ヶ首に登ってから茶臼岳の裏側、噴煙の湧き出る無間地獄の下を通して峠の茶屋跡から県営駐車場へ下山した。

文責：太

タイム

【1日目】

9：40 峠の茶屋→10：50 峠の茶屋跡 11：20→12：20 沼原分岐→12：40 三斗小屋温泉

【2日目】

8：00 三斗小屋温泉→8：40 沼原分岐→10：15 ひょうたん池→10：50 姥ヶ平
→11：30 牛ヶ首→11：45 無間地獄→12：00 峠の茶屋跡→12：45 峠の茶屋



高森山 1099m

11月18日 渡辺敏夫

土埋山から下山して、次は金山町の国土山に登ろうとしたが、道路工事で登山口に近づけなく、仕方がなく次の高森山に変更した。高森山は沼沢湖の東に位置する山で、登山口の案内や道標も完備して、登山道も整備されている。登山口から30分ほどして山の神と称する鞍部に到着した。ここまではなだらかだが、ここから道が急になり、最後の山頂近くでは痩せ尾根で、岩が露出してその間を縫うように進み、かつ急斜面。簡単な登山を予想していたが、結構登りがいいのある山でした。



コースタイム

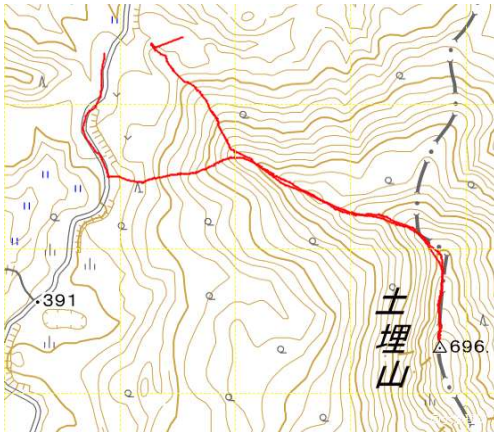
登山口 12:26→山頂 14:10 14:27→登山口 15:35

文責 渡辺敏夫

土埋山（つちうづみやま） 696.4m

11月18日 渡辺敏夫

会津百名山を目指して、残り二十数山になった。10月頃の紅葉の盛りに登りたかったが、天候が今一つよくなく、延ばしていたら秋の終わりになってしまった。したがって、紅葉の美しさを味わうことができなかった。西会津の新潟寄りの、土埋山から登り始めた。前日、高速道路のPAに泊まって、朝一番に麓に到着した。GPSのトラックデータを頼りに、藪の中へ分け入った。マーキングが所々にあり、それを頼りに進む。しばらく進むとしっかりした道に出くわした。山頂まではその道を頼りに進む。1時間ほどで山頂に到着した。道を頼りに下山すると、登山口の標識があった。ここから登れば、藪漕ぎすることはなかったようだ。



コースタイム

登山口 7:45→山頂 8:50 8:58→登山口 9:37

文責 渡辺敏夫

高館山 847.7m

11月19日 渡辺敏夫

美女峠から下山して、同じ昭和村の高館山に向かった。道標がなくGPSトラックデータもないので、登山口らしきところに来て見回しても、ここから登っていいのか確信が持てなかった。丁度、近くに地元の人がいたので道を尋ねると、登ろうと思っていたところが登山口ようだ。話によると、以前は刈払いが行われていたそうだが、最近は刈払いも行われていなく、ほとんど道はないとのこと。藪漕ぎを覚悟で藪の中に入っていった。しかし、わずかにふみ跡らしき人が通った跡があったので、それを頼りに進むことにした。しかし、途中でその跡も途絶えて、藪をかき分けて進むしかなかった。GPSと地図と磁石を頼りに進むが、急斜面では笹藪や落ち葉に足をとられて苦戦をする。山頂の近くでは小屋が見えてきた。以前は神様をまつたお堂のようだ。ほとんど朽ち果てて倒壊寸前ようだ。しばらく急斜面を進むと山頂近くになり、また、わずかに踏み跡が確認できる。踏み跡があると藪をかき分ける必要がないので、かなり楽になる。帰りは、尾根筋をたどり登山口近くで沢に降りて登山口へと戻った。ほとんど登る人はいないような様子であった。



山頂近くのお堂らしき小屋



コースタイム

登山口 12:39→山頂 15:00 15:03→登山口 16:13

文責 渡辺敏夫



美女峠、俎倉山（まないたくらやま）1056.4m

11月19日 渡辺敏夫

高森山の登山口で泊まり、早朝、昭和村の美女峠の入り口に到着した。車道脇に車を止める場所がないため、少し離れているが村の排水処理施設の脇に車を止めて歩き始めた。美女峠入り口のしっかりした道標が立っていた。入り口から林道が美女峠まで続いていた。途中で袴沢口と野尻口の合流点には、会津銀山街道の幟旗が立っていた。美女峠は昭和村と三島町の間にあるが、この道は若松から只見町まで続く銀山街道の一部のようだ。美女峠までは一時間半ほどで到着したので、右の方向にそびえている俎倉山に登ることにした。斜面は急で、しかも落ち葉が厚く積もっているので滑りやすく、登りづらい。山頂近くには昭和村のテレビのアンテナが立っていた。三角点は藪の中で探すのに手間取ったが、木々の葉が落ちていてなんとか見つけることができた。



コースタイム

登山口 7:14→入の沢分岐 8:11→美女峠 8:43→俎倉山
山頂 9:49 10:12 美女峠 10:37→入の沢分岐 11:07→
登山口 11:48

文責 渡辺敏夫



愛宕山 754.4m

11月20日 渡辺敏夫

前日、昭和村の道の駅で泊まり、早朝、愛宕山の登山口に着いた。登山口には立派な標識があった。登山口は大山祇神社の入り口。石段を登り神社の本堂から入る。登山道がどこにあるのか探したがよくわからないが、地図を見ると登山道は神社の右わきのようなので、右を見渡すと道が見えてきたので、それをたどり進む。登り口が不明瞭だが進むとしっかりした道が現れる。間もなく山頂に着く。山頂にもお堂が立っている。しかし、修理もされず大分傷んでいる。山頂からは大芦部落が見渡せる。帰りは来た道を引き返した。



コースタイム

登山口 7:37→山頂 8:09→登山口 8:26

文責 渡辺敏夫

宮床湿原

11月20日 渡辺敏夫

宮床湿原は南郷スキー場の隣にあるこじんまりとした高層湿原だ。この時期は特にみるものはなく、褐色に覆われた草原が広がるだけである。春から初夏にかけてが、おそらくいろいろな花が見られ、楽しい散策コースになると思われる。

コースタイム

登山口 11:33→湿原入り口 11:47→木道入り口
11:59→湿原入り口 12:12→登山口 12:20

文責 渡辺敏夫



明神岳 766m

11月20日 渡辺敏夫

南郷スキー場の北側に位置するのが、明神岳である。登り口にはさいたま市の南郷荘がある。南郷荘の隣の空き地に車を止めて、歩き始めた。入口には鳥居があり、脇に看板があるが、以前は案内が書かれていたであろうことが想像されるが、今はそれもはがれさびれた板だけになっている。最初は、きちんと敷設された石段が続いてとても登りやすい。その石段が終わると幅の広い林道のような登山道となるが、藪が生い茂りととても歩きにくい。所々崩れていて補修もされていない。刈払いがなされていればとても気持ちの良い登山道だ。歩きにくい道を明神岳を回るように進むと、山頂に到達した。山頂には東屋が建てられているが、ほとんど崩れかけている。おそらく以前は登山者も多く登山道も整備されて、住民の多くが登っていたであろうことが想像される。明神岳は麓の神社の信仰の対象となっていたであろうと思われる。山頂からは樹木にさえぎられて、見通しはきかない。登る途中からは南側の伝上山、石城山が望まれる。



コースタイム

登山口 9:26→山頂 10:21 10:39→登山口
11:05

文責 渡辺敏夫



宝篋山（461m）

2021年11月21日（日） 太・柏村・菅野・西

富士も見えることを期待しながら、筑波山の展望台、宝篋山（小田山）に登った。

5時に市内を出発、常磐道を土浦北ICで下り、7時前に小田休憩所の第二駐車場に駐車、すでに満車に近い。休憩所を掃除中の地元の方々から、マップにない要害展望所を経由して周回するルートへのアドバイスを受けた。参考まで、休憩所のトイレは水洗式。

第一駐車場と第二駐車場の間から農道を進み、分岐で常願寺コースへ。田畑が終わると、雑木が多くなり、沢沿いを登る。常願寺コースは、天狗岩、大小の滝を経て常願寺沢から急登の後、尖浅間のピークに至る。（「沢の小道」を歩いた1名は、コースを外れて藪漕ぎ、大形山299mピークを経て尾根道で尖浅間に出た。）尖浅間からは尾根を宝篋山へ進むが、途中に「山桜の森」がある。よく手入れされた樹林で、花の季節はさぞかしと思われた。極楽寺コースと合流して進むと、山頂トイレの前に出る。バイオトイレが3つあるが、水道はない。そこから少し登ると宝篋山の山頂である。宝篋印塔



の前からは、筑波山が目の前。ざっと50人以上の登山者で賑わっていた。期待した富士は、霞んで見えなかった。菅野会員が担ぎ上げた卓上コンロ2台で、さっそく焼肉と豚汁を準備。焼肉は柏村会員がカルビ、生ラムなど豊富に、豚汁は西会員が下ごしらえのうえ、シメのうどんまで用意してくれたおかげで、筑波山を眺めながら非常に豪華な芋煮会となった。

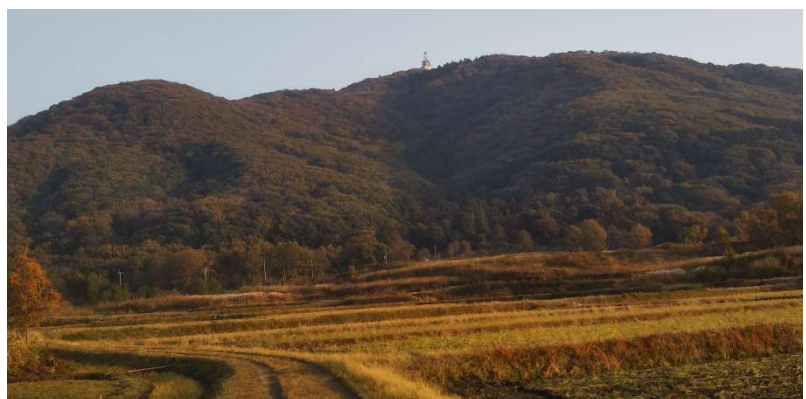
食後は小田城コースで下山。富岡山に立ち寄ってから、小田城コースを横切り、要害展望所を通る「中世城の道」で小田休憩所に戻った。要害展望所、「中世城の道」は麓の展望もよく、周回ならオススメのコース。

文責：太

タイム

7：20 登山口・宝篋山小田休憩所→8：50 尖浅間山→9：35 宝篋山 11：15→11：35 下浅間神社

→12：20 富岡山→12：30 要害展望所→12：50 登山口・宝篋山小田休憩所



生瀬富士・立神山・月居山

2021年11月23日（火）

参加者：秋葉信夫・青天日記安・山中 剛・安部辰也・佐藤春美・吉田 睦・国井明夫

生瀬富士・立神山・月居山、茨城のジャンダルムと袋田の滝に行ってきた。行くメンバーを考慮して、集合場所を勿来駐車場とした。約1時間30分で袋田の滝第2駐車場に到着、天気は、快晴、ただ、今回のコースには、川を渡る地点があり、前日の雨影響がどうかと思った。



生瀬富士登山口から山頂を目指す、しばらく平坦な道を歩くと急に急な登りになる。しかし、長くはない、岩場を登ればもう山頂。快晴で展望もいい、那須の山々や奥久慈男体山など見渡せる。やはり天気がいい山行は最高。次はいよいよ茨城のジャンダルム、切り立った岩稜が100m位。本当のジャンダルムには行っていないが、本物と同じような天使がいる。



生瀬富士山頂へ戻り、立神山へ、生瀬富士山頂から急な下り道をとおり、また登って立神山山頂へ、林の中眺望がない。ここから2度くらいの上り下りを経て、滝見展望台。袋田の滝がきれいに雄大に見える。上からの滝も素晴らしい。滝を眺めたら渡河地点へ、展望台からそんなに時間はかからない。結構、水が増水している。長靴であれば渡れる。現地に自由に使える長靴があり、これを利用して川を渡る。しかし、この時、長靴は対岸にある。登山初めから長靴を履いているメンバーが持ってきてくれた。ありがたい。対岸には、貸別荘がある。トイレを自由に使っていていいとか。ありがたい。

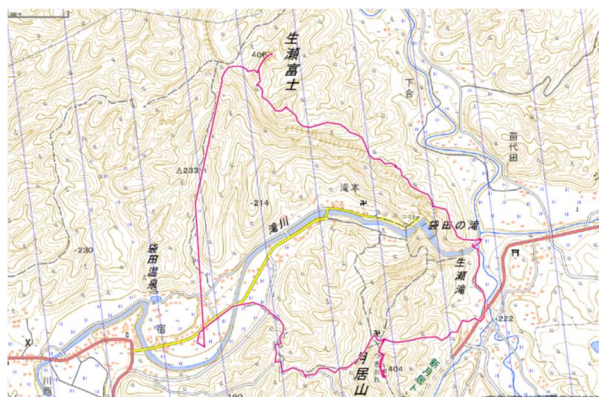
ここから月居山へ一旦舗装道路から、登山道へ。途中でパトカーや消防の車が集まっていた。そのうち、ヘリコプターが飛びまわりだした。搜索のようだ。結構危険な山のようだ。登山道を登っていくと鐘撞堂へ出る。当然、鐘はつく。そういえば、登ってくるときに鐘がなっていた。ここから急な道を登り、月居山山頂へ。山頂は、紅葉の葉が綺麗に赤く色づいていた。ここで昼食、お昼を食べるのに丁度いい感じの広場。帰りは、鐘撞堂へ出て、広い登山道を駐車場へ向かった。

駐車場から滝見の湯で汗を流し、りんご園でりんごやアップルパイを買って無事に勿来駐車場へ帰ってきました。みなさんありがとうございました。
(文責 国井)



【コースタイム】

8:00 袋田の滝駐車場 - 8:03 生瀬富士登山口 - 9:11 生瀬富士 -10:02 立神山 - 11:15展望台
- 11:26 渡渉点 - 12:27 月居山 13:00 - 13:45袋田の滝駐車場



高尾山

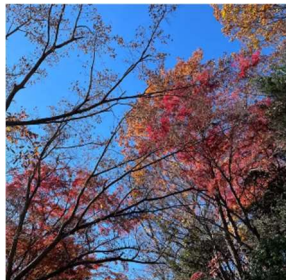
2021年11月24日

下山田、蛭田（一二三）、尾形（成）、尾形（長）、佐藤（勝）、蛭田（みち）、伊藤、野寺、佐藤（幸）

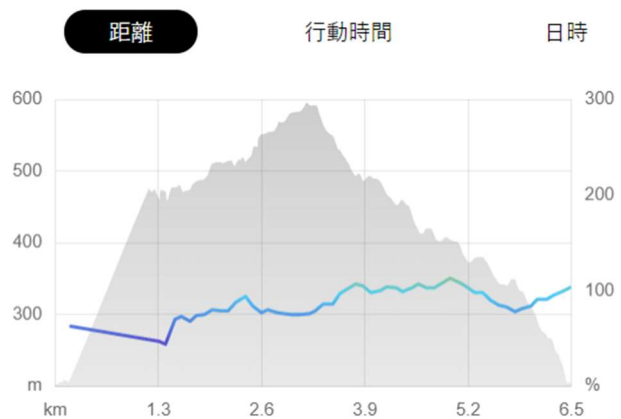
2年前、東京の中野駅から、電車で高尾山山口駅まで行き、高尾山登山をしました。紅葉時期を少し外れていたためか、混雑にあわず、スムーズに下山することができた思い出でした。2回目の登山、紅葉時期でもあり、登山道も沢山あるため、3人で（蛭田みち、伊藤、佐藤幸子）高尾山登山計画を立てました。

朝、3時30分、予定通り出発する。首都高速道路を通過時、目の前に白い雪を被った富士山をみることができ、今日はきっといいことがありそうな予感。高尾山は都心からの交通の便にも恵まれ、日帰りでもゆっくりと山歩きが楽しめる国定公園。平成19年富士山と並んでミシュランの三ツ星に指定された素晴らしい山です。高尾山周辺に高等植物は153科1300種類に及んでいるそうです。

秋の紅葉は格別で山頂から谷いっばいに燃えるように広がる鮮やかな紅葉は多くの登山者の目を楽しませることで、とても有名です。最近の東京の紅葉名所ランキング、3位 高尾山でした。駐車場の予約、近く場所、とれなかった。と聞き予想はしていましたが、高尾山近位の駐車場は、1年前から予約しないと取れない、と言う現実を知りました。11月23日のニュースでは、ケーブルカーに乗るにもトイレに入るにも何かを購入にも40分から50分、車も大渋滞、長蛇の列。予定通りスムーズに高尾山の清滝駅に到着できたと喜んでいました。ケーブルカーに乗り、名物の天狗焼を食べ、高尾山薬王院まで歩き山頂に到着。皆で山頂からの風景を見た時、目の前に大きな富士山がみえました。山頂付近からは天気の良い日には富士山の姿もくっきり見ることができ、空気の澄んだ冬の時期には、遠くの山々を見ることができると聞いていましたが、まさにそのとおりでした。皆で山頂昼食をとり、その後、稲荷山コース（3.1km）、を下山しました。山頂での多くの人ごみと、賑わいを見たせいか、稲荷山コースの登山、下山者は、少ないと思いました。登って行ったコースは、沢山の人で賑やかでしたが、少しコース離れただけで、とても静かで、ゆっくり下山することが出来ました。下山後、登山計画書を見ると（駐車場出発 13:50分予定）でしたので、清滝駅到着（14:09分）は、急いで、トイレを済ませ、お見上げを短時間で買えば、そんなに、変わらないと思いました。ところが、最後に、首都高速道路の大渋滞にあい、自分達の計画通りには、いかない現実を体感しました。高速道路なのに、渋滞で車が全然動かない。速く自分の家に帰りたいのに、どうすることもできない。次回からは、車渋滞回避対策を考えて計画を立てなければ、いけないと反省しました。運転してくれた、佐藤勝さん、ありがとうございました。一緒に行ってくれた皆様、とても楽しく綺麗な紅葉をみることができ、いい思い出になりました。ありがとうございました。これからも、よろしくお願いいたします。



文責：佐藤幸子



山の情報

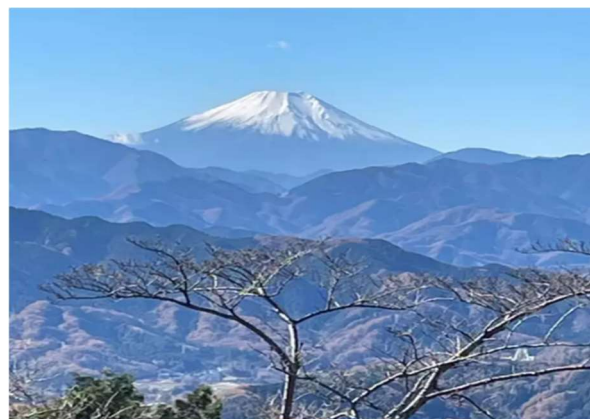
稲荷山 (東京都)・高尾山



コースタイム

09:25	S	
09:25		清滝駅 >
09:42		
09:42		高尾山駅 >
09:45		
39分		
10:25		神変山 >
10:28		
8分		
10:37		高尾山 薬王院 >
41分		
11:19		高尾山 >
12:40		
34分		
13:14		稲荷山 >
13:28		
36分		
14:05		清滝駅 >
14:09		
14:09	G	





ニツ石山（751m）

2021 年 11 月 27 日（土） 太

風力発電工事が進められていると聞き、現状を確かめるため国道 49 号側から湯ノ岳連峰を目指した。

国道 49 号から細戸橋を渡り、林道の遮断機型ゲートまで車を乗り入れ、空地に駐車して行動を開始。沢地形に沿ってケヤキやモミジの見られる林の中を奥へと進み、高度を上げて行く。最後に右に折れて急斜面を登ると、尾根に出る。急斜面に設置した山岳会のロープはなくなっていた。広い尾根にある道は、急なところもあるが、樹林に笹原の気持ちの良い道。登って行くと、山頂近くで樹林が急に疎らなことに気づく。そこでは、登山道が丸太で止められ、ブル道（作業道）が横切っていた。黒い腐葉土にクローラ跡も新しいブル道は、鶴石山方面へとずっと続く。登山道を見失ったが、ほぼ山頂なのでブル道を渡って少し高い方へ笹原に行く。疎らな樹木に囲まれた場所に山名板が立ち、その傍らの一等三角点「ニツ石山」（750.75m）標石も、横たわる大きな石も以前のままだった。ただ、先ほど越えたものの反対側にもブル道があり、山頂付近だけ伐採されずに樹木が残されたように感じた

写真を撮って休んでいると、三大明神三差路方面から大きな音とともに重機がやって来て、山頂付近の伐採木を片付け始めた。作業に邪魔で危険だろうと思い、三大明神山へ縦走することを諦め、そっと笹原を漕いで下山した。

文責：太

タイム

7：35 林道ゲート→8：35 鶴石山 8：40→9：25 林道ゲート

